

# 支援の手引き

## ～幼稚園版～



大分県教育センター特別支援教育部  
平成19年4月

## はじめに

県教育センター特別支援教育部には、主として幼児から高校生までの教育相談が寄せられます。平成18年度には、4月から12月までに約1,200件の教育相談を実施しました。

その中には、「落ち着きがない」「友だちと遊ばない」など気になる子どもたちが多くいました。最近では、保護者の方が「遅れがあるのではないか」などと心配したり、保育に携わる大人が「何度指示しても行動できない」などと保育について悩むなどの幼児の教育相談も増加しました。

教育相談に関わっていると、子どもたちの気になる行動には共通点があり、同じような支援策が有効なことがわかってきました。また、研究をとおして、幼児の気になる行動をチェックするシートや小学校との連携に活用できるようなシートを作成しました。

そこで、これらのチェックシート、有効な支援、連携シートをまとめ、悩みに応じることができるよう『支援の手引き～幼稚園版～』を発行することにしました。

## 基本的な考え方

### 一人ひとりの気になる状態に応じましょう

幼稚園には幅広い発達段階の子どもたちがいます。早生まれの子どもたちは当然のことながら、4、5月生まれの子どもたちよりは未熟な発達にあり、一人一人が違います。

家庭環境も、兄弟のいる子ども、いない子ども、祖父母と同居している子ども、していない子どもと様々です。

このように、様々な発達段階や家庭環境に応じるといった意味で細やかな支援が必要となります。気になる子どもたちへの対応も同じです。「一人だけ特別な扱いはできません」と言わず、一人一人の状態に応じることが必要です。



### 保育方法をふりかえりましょう

「何度注意をしても同じことを繰り返す」「他の子どもはできるのにできない」といった悩みを聞きます。また、「家庭が甘やかしているのでは」という家庭への思いや「わがままなのは」という子どもに対する思いをもつこともあるようです。

中には、子どもに応じた養育がなされていない家庭もありますが、そのことを責めるよりも、まず、幼稚園における子どもの気になる行動に対応することが必要です。

一般的な保育の方法で気になる行動が改善しない場合には、方法が子どもに応じていないかもしれないとふりかえってみましょう。

### 診断名は子どもの一部分であると考えましょう

最近、医師の診断を受けている子どもが増えてきました。診断名を基として、その状態や基本的な対応を知ることができ、診断名は、子どもの貴重な情報となります。

その一方で、「ADHDの〇〇さんだから…」などのような、診断名で子どもを判断しようとする大人がいます。ADHDの子どもたちの中には、元気のよい子どももいれば、のんびりとした子どももいます。おしゃべりの子どももいれば、ゆっくりとお話をする子どももいます。同じ診断名でも状態の違うことは多くみられます。

診断名は子どもの一部分であると考え、目の前の子どもと向き合うようにしましょう。

ほくを  
わかってね



## 子どもの実態把握

### 得意なこと、よい面をとらえよう

つい、問題となる行動、できないことばかりに気をとられますが、子どもの得意なこと、よい面をとらえることが大切です。子どもとの関係をつくるうえで重要となることはもちろんですが、得意なこと、よい面は子どもへの支援を考えるとときに有効な手がかりとなります。

よいところを  
とらえましょう



例えば、Aさんの場合

- ・多動でじっとしていない
  - ・ことばで言うよりも先に友だちを押ししたり、たたいたりする
  - ・黙ってほしいときに大声でしゃべる
- という問題となる行動が見られました。

先生はとても困っていましたが、園での様子をさらにお聞きすると

- 粘土遊び、工作のときは短い時間だが、作り終わるまではじっとしている
- トイレのスリッパなど置き場所の決まっているものはきちんとしまう
- 給食の時間には、「いただきます」までは行儀よく黙って座っている

というよい面があることがわかりました。

いただきます



このことから、すべきことがはっきりとしているとじっとしている、いつまで黙っていればよいのかをわかりやすくすると、黙っていることができそうだと考えました。

特にAさんは、ことばで説明されてもうまく理解できないようですので、友だちへのかかわりについてはよい行動を絵にして示すようにしました。

このように、得意なこと、よい面は支援の手がかりとなることがあります。

☆得意なこと、よい面をとらえる

☆苦手なこと、できないこと、問題となっていることをとらえる

の2つの面から子どもの状態をとらえましょう。

### 具体的な場面、行動、対応を記録しよう

実態を把握するときには、具体的な場面、具体的な行動、そのときの対応策とその後の子どもの行動を記録することが大切です。

例えば、Bさんの場合

「すぐにおしゃべりをする」という行動が見られました。具体的には、

<どんなときに> ・教室でみんなにお話をしているとき

・作品作りや「凧あげに行く」など行事について話しているとき

<どんな行動> ・話の途中で「どこ行くん？」

「何する？」と尋ねる

<対応> ・尋ねられたことにすぐに答える

<その後の行動> ・その場では納得するが、すぐに別の内容を尋ねる

のような行動が見られていました。



この記録から、

○ことばだけでは理解しにくいのだろう

→実物、絵、カレンダーなどお話の内容をわかりやすくする工夫をする

○『黙って聞く』という約束が子どもには伝わっていないのだろう

→お話の始めに『黙って聞く』という約束のために「お耳をよく使ってね」と

耳の絵カードを示す、また「おしゃべりはストップね」と口の絵カードに

×印をしてみせる

- 教師が対応することが『おしゃべりをしてよい』という考えにつながっているの  
だろう
- すぐに別の内容を尋ねるので、今の対応は変更が必要だろう
  - 子どもの質問には反応せず、指で静かにというジェスチャーや耳を指さして  
聞くことを印象づける
  - 短く話をするようにする。おしゃべりをしなかったらすぐにほめる  
とよいと考えました。

実際に保育をしているときには記録しにくいでしょうから、主任や他の先生をお願い  
をしたり、ポケットにメモ用紙を持って気づいたときに記録したりするとよいでしょう。

### 気になる行動をチェックしましょう

幼児期は、生まれた月や環境によって子どものできる行動が違ってくる  
場合があります。しかし、このまま子どもが発達していくよう環境を整え  
て経過を観察してよいのか、特別な支援が必要なのかという判断をするこ  
とが大切です。

例えば、友だちとうまくやりとりができない時期の幼児は、大人が仲介  
して友だちとのかかわりをもたせ、その楽しさやかかわり方を繰り返し知  
らせることで友だちとうまくかかわって遊ぶことができるようになります。  
しかし、友だちとのかかわりをもちにくい特性のある『軽度発達障  
がい』の幼児の中には、友だちが嫌がってもその表情に気づきにくく、友だ  
ちが嫌がるかかわりをする場合があります。その場合は、友だちの表情を  
ことばで知らせたり、友だちが嫌がった場合の対応を大人と一緒に練習し  
たりすることが必要です。

このように、支援の方法が異なってくるため、環境を整えて経過を見守  
っても繰り返し気になる行動が見られる場合には、『幼児発達チェックシ  
ート』を利用し、子どもの行動について見極めましょう。



### 幼児発達チェックシートの記入について

#### 【使用方法】

1. 言語・身体・コミュニケーション・社会性の各項目、あるいは必要な項目でチェッ  
クし、発達水準を把握する。
2. 4つの各領域について、一番下の項目から検査年齢までの全てについて、ア・イ・  
ウの3段階の観点でチェックし、気になる行動の見極めに使用する。

**【1の方法で使用する場合の記入要領】**

- ①検査年齢を算出する。
- ②調べたい領域を言語・身体・コミュニケーション・社会性の中から選びチェックし、上限項目から発達水準を把握する。
- ③未発達な部分については、チェック項目の記述を参考にして支援する。

**【2の方法で使用する場合の記入要領】**

- ①検査年齢を算出する。(例：4歳1ヶ月の場合は4：0～4：3の枠を見る)
- ②一番下の年齢項目（2歳0ヶ月）から検査年齢までの項目を全てチェックする。  
 チェックの評価基準は以下に記すア・イ・ウの3段階とする。  
 ア：無関心または指示や援助をしてもできない イ：指示や援助があればできる  
 ウ：自主的または一人でできる
- ③各領域でチェックした項目数の内、＜ウ：自主的または一人でできる＞にチェックした数の割合を算出し、全体の3分の1以上かどうかによって支援方針を検討する。

記入例：4歳7ヶ月児（年中）

- ☆ ＜ウ：自主的または一人でできる＞のチェック数7個
- ☆ 2歳0ヶ月～4歳7ヶ月までのチェック項目は1領域につき12個
- ☆ ＜ウ：自主的または一人でできる＞の割合は3分の1以上なので評価のめやすの表記を参照する

- ①評価のめやすを参照して適切な支援を行う。

**【各領域の評価のめやす】**

＜ウ：自主的または一人でできる＞のチェック数の割合	評価コメント
チェック項目数の3分の1未満の場合	発達が多少気になります。 各種発達検査を実施したり、「不適応の状態を把握するチェックシート」（別紙）等を利用して、より詳細な把握を行い、有効と思われる支援をしてください。 さらに、保護者の希望があれば専門機関の紹介をしましょう。
チェック項目数の3分の1以上ある場合	今のところ発達に問題はありません。 できる項目とできない項目の偏りに注意して、環境の整備、支援方法の工夫により経過を観察してください。 3ヶ月～6ヶ月後に再度チェックして、発達の進捗を把握してください。

**注意事項** ◎本シートは実態の見極めのために使用し、必要に応じた支援を行うためのめやすとするものです。決して障がいの有無を判断したり、発達の度合いに優劣をつけたりするものではありません。

## 幼児発達チェックシート＜言語・身体＞

氏 名 ( )

検査年月日 (      年      月      日)

検査年齢 (      歳      月      日)

月齢	言語			身体				
	項目	評価			項目	評価		
ア		イ	ウ	ア		イ	ウ	
7:0	自分の名前をひらがなで書くことができる				積み木の端を揃えて、まっすぐに塔を積み上げることができる (30cm以上)			
6:9	簡単な文字を読むことができる				きちんと角のある三角形、正方形、菱形を描くことができる			
6:6	身の回りの物の用途についてことばで定義することができる (はさみとは?のりとは?等)				目をつぶって片足ずつ交互にして立つことができる			
6:3	10までの数の概念が確立している				ジャングルジムに登ることができる			
6:0	「もし〜したらどうなりますか?」の質問に答えることができる				行進、スキップ、ギャロップなどをリズムに合わせる			
5:9	「一番たくさん」「一番少ない」の意味がわかる				ボールを5回以上つくことができる			
5:6	「〜ので」「〜のに」「〜けど」等の接続助詞を使って2つの文をつなげて話すことができる				タオルやぞうきんをしばることができる			
5:3	最初の音が同じことばを集めて言うことができる				菱形と十字形をはみ出さずひなぞることができる			
5:0	反対語がわかり使うことができる				ブランコにのって2〜3回こぐことができる			
4:9	大きい音や小さい音を聞き分けて、音の大小を言うことができる				点線で描かれている絵をクレヨンでなぞることができる			
4:6	受身文を理解して話すことができる (犬こまれた) など				スキップができる			
4:3	「そして」「それから」「でも」などの接続詞を使うことができる				はずむボールをつかむことができる			
4:0	あとで、すぐ、今などの時の概念のことばを使って話すことができる				おぼんにお皿や茶碗をのせて運ぶことができる			
3:9	5色以上の色がわかり、その色の名前を言うことができる				ぼたんをはめることができる			
3:6	きのう、きょう、あしたがわかる				片足で5秒以上立っていることができる			
3:3	「が」「を」「に」などの助詞を使って話すことができる				思いっきり速く走ることができる			
3:0	大きい、小さい、長い、短いわかる				両足どちらでもボールを蹴ることができる			
2:9	自分の名前を言うことができる				手すりをもって階段を昇り降りすることができる			
2:6	上下・前後がわかる				まねてOを描こうとする			
2:3	養育者もしくは保護者の話を聞くと喜ぶ				かめつっこができる			
2:0	絵本を読んでいるときに「うさぎさんはどれ?」と言うと指でさすことができる				相手に向かってボールを転がそうとする			
合計	ア=( ) イ=( ) ウ=( )			ア=( ) イ=( ) ウ=( )				

＜記入要領＞    ア：無関心または指示や援助をしてもできない  
                           イ：指示や援助があればできる  
                           ウ：自主的または一人でできる

## 幼児発達チェックシート＜コミュニケーション・社会性＞

氏 名 ( )

検査年月日 (      年      月      日)

検査年齢 (      歳      月      日)

月齢	コミュニケーション			社会性				
	項 目	評 価			項 目	評 価		
ア		イ	ウ	ア		イ	ウ	
7:0	友だちが困っていたら助けようとするができる				自分で目標を決めて実行しようとするができる			
6:9	大人の衣服や持ち物を使って、大人になりきって遊ぶことができる				公共の場所で人に迷惑をかけないで行動することができる			
6:6	自分の好きな友だちを選んで、すすんで遊ぶことができる				はだかであることを気にして恥ずかしがる			
6:3	食事のときに会話に加わることができる				食べる速度を周りに合わせようとするか、早く食			
6:0	物語の一部を自分で演じたり、人形を演じさせたりすることができる				大人が見ていなくても、4～6人の子どもと協力して遊ぶことができる			
5:9	他の子どもにゲームや遊びのルールを説明することができる				小さい子のめんどうをみることができる			
5:6	楽しい、好き、怒っているなど、自分の感情をことばで表すことができる				信号を見てきちんと道路を渡ることができる			
5:3	みんなの前で歌ったり、踊ったりすることができる				じゃんけんや勝ち負けが分かる			
5:0	4回のうち3回は「ごめんなさい」を言うことができる				大人が見ているときは、2～3人の子どもと20分ぐらい協力して遊ぶことができる			
4:9	お客さんにあいさつしたり、簡単な質問に答えたりすることができる				他人が嫌がることを人の前でしない			
4:6	人の物を使うときに許しを求める態度やことばを言うことができる				8～9人の集団で遊ぶときに順番を待つことができる			
4:3	助けが必要ときに近くにいる人に頼む(トイレに行きたい、水が飲みたい)ことができる				公共の場でしてはいけないこと(さわがしい)などのマナーを意識することができる			
4:0	自分でやりたいことをやりながら、時には友だちと話したり遊んだりする(30分ぐらい)				2, 3人の遊びの中で順番が分かる待つことができる			
3:9	遊びの中で適切なことば(貸して、ちょうだい、取って、ありがとうなど)を使うことができる				屋外の決められた場所で遊ぶことができる			
3:6	友だちと順番に物を使うことができる(ブランコなど)				たいたい4回のうち3回は大人の言うことに従うことができる			
3:3	「こうしていい?」と許可を求めることができる				一人でトイレに行くことができる			
3:0	ままごと遊び、ごっこ遊びができる				箸やフォークで刺して食することができる			
2:9	嬉しい、楽しい、悲しいの気持ちなどがわかり表情で表すことができる				自分で手を洗ってタオルで拭くことができる			
2:6	おもちゃなどを貸してほしいとき、相手に伝えることができる				歯をみがくまねができる			
2:3	「どうぞ」「ありがとう」を言いながらやりとりができる				お友だちのまねをして遊ぶことができる			
2:0	おしっこが出たことを教えることができる				遊んだおもちゃを箱に片づけることができる			
合計	ア=( ) イ=( ) ウ=( )			ア=( ) イ=( ) ウ=( )				

＜記入要領＞ ア：無関心または指示や援助をしてもできない  
 イ：指示や援助があればできる  
 ウ：自主的または一人でできる